

# 一宮市 博物館 だより

## もくじ

企画展「新収蔵品展」 .....	2
夏季小展示「なんで穴があいてるの？」 .....	2・3
博物館アルバム(平成28年度後期) .....	4・5
文化財保護事業	
遺跡の発掘調査 .....	6・7
郷土史出版補助事業 .....	7
平成29年度 催し物のご案内 .....	8

No.59 2017.3



円窓付台付土器(苗代遺跡出土・館蔵)  
夏季小展示「なんで穴があいてるの？」より

企画展

# 新収蔵品展

コレクター秘蔵の逸品

6月3日(土)～7月9日(日)

この展覧会では、近年博物館に寄贈された美術作品を紹介いたします。

当館収蔵の美術工芸品の多くは、市内の方からの寄贈品です。その中でも寄贈者が独自の美意識で収集した秘蔵の逸品ともいえる絵画や工芸品を初公開します。

(成河端子)



佐分眞《婦人立像》(館蔵)

夏季小展示

# なんで穴があいてるの？

穴の向こうに広がる世界

7月15日(土)～8月27日(日)

土の中から出てきた昔々の人々の生活の道具。その中には穴があいているものがあります。自然にあいた穴ではなく、人の手で何かしらの意図を持ってあけられた「穴」。何のために人々は、道具に穴をあけたのでしょうか。本展示では一宮市やその近辺の遺跡から出土した、穴のあいているものだけを集めて紹介します。(瀧はる香)



瓶子(蔵骨器)(法圓寺中世墓遺跡出土・館蔵)



同上・底部

# 展示裏話 なとで「穴」がテーマなの？

今年の夏季小展示のテーマは「穴」。遺跡から出てきたものの中から穴があいているものだけを集めた展示です。なぜ「穴」がテーマなのか。穴にこめた想いを皆さんにお話ししましょう。遺跡から出てきたものの代表例は土器や石器です。皆さんは、土器や石器をどれだけの時間をかけて見るでしょうか。土器や石器といった遺物は、昔の人々が使っていた生活の道具たちです。皆同じように見えますが、ひとつひとつ人の手で作られたものたちです。じっくり観察すると、当時の人々がどうやってものを作っていたかがわかります。

例えば土器の場合、表面を木の棒できれいなでた跡や、形を作るときについたであろう親指の跡、竹を押し付けてつけた模様など多くの跡を見ることが出来ます。遠い遠い昔、人間がものを作り、生活をしていたという証拠がたしかに残っているのです。このように「ものが作られた当時の生活の様子や自然環境を、ものを通じて明らかにする」のが考古学です。この考古学の世界をちよつとのぞいてほしい。それが穴にこめた想いです。

今回テーマにした「穴」は、見つけやすく、わかりやすい痕跡です。また一口に穴といっても、小さい穴、大きい穴、なんでもそんなところに穴があいているのかといったものまで、種類はさまざまです。ぜひ、どこに穴があるのかを探し、なぜ穴があいているのかを考え、穴を通じて考古学の世界をのぞいてみてください。いつもと違った世界がそこには広がっているかもしれません。

(瀧はる香)



勾玉 (寿福寺古墳出土・寿福寺寄託)



土師器 甑・底部 (丹陽町森本字弥勒出土・館蔵)

企画展  
くらしの道具 おとな服・こども服



日本のたこづくり (1月29日)

平成29年1月14日(土)から3月20日(月・祝)まで、57日間に及んだ会期中には、市内42小学校の3年生が見学に訪れ、にぎやかな声が館内にあふれていました。

- 1月22日(日)うすひき体験・きもの体験
- 1月29日(日)日本のたこづくり  
澤木寛氏(日本の凧の会尾張二宮支部会長)

尾張平野を語る21  
ウールが支えた洋装文化



「雑誌『皇族画報』にみる近代皇族のファッション」  
(2月5日)

- 2月5日(日)「雑誌『皇族画報』にみる近代皇族のファッション」  
青木淳子氏(大東文化大学特任准教授)
- 2月12日(日)「華麗なる大礼服の「二面性」  
刑部芳則氏(日本大学准教授)」
- 2月19日(日)「学校制服の成り立ちと移り変わり」  
難波知子氏(お茶の水女子大学助教)
- 2月26日(日)「近代日本洋装化の源泉」  
能澤慧子氏(東京家政大学教授)

民俗芸能公演



ばしょう踊 (3月5日)

はしゃぎ回っていた保存会の子どもたちも、本番となれば表情は真剣そのもの。毎年恒例ということもあり、子どもたちの成長も垣間見え、楽しいひと時となりました。

- 3月5日(日)ばしょう踊
- 3月12日(日)宮後住吉踊
- 3月19日(日)島文楽



第2回講座 (7月17日)



第2回講座 (6月11日)

古文書講座

この講座も平成28年度で25回目を迎えました。今年度も、講師は一宮市文化財保護審議会委員の小川一朗先生です。「丹羽郡瀬部村浪人熊沢家文書」をテキストに、5月から3月までの全10回の講座を通して、グループ内で語り合いながら、楽しく学ぶことができました。

博物館キッズクラブ

5人の新メンバーを迎え、様々な活動を行いました。

- 6月19日(日)尾張洋画入門
- 7月17日(日)蒲郡市の博物館水族館ツアー
- 9月17日(土)モバイル・トリエンナーレ キッズツアー
- 11月20日(日)浅野長政と戦国時代を知る
- 平成29年3月20日(月・祝)木曾川資料館で蓄音機を知る



文化財防火訓練 (1月26日)



当世具足を着てみよう (10月29日)

たいけんの森

「名画でぬりえ」、「じょうもんキーホルダー」、「花押スタンプ」、「ミニたこ&こまづくり」に加え、特別展「三英傑とともに歩んだ浅野長政」開催中は、戦国時代のよろいを着てみる「当世具足を着てみよう」を実施し、途中いちみんな遊びに来てくれる「コマもありました」。

文化財防火デー

市教育委員会は消防本部とともに、平成29年1月13日(金)に文化財管理者宅での防火指導や防火用設備等の点検をする文化財防火パトロールを実施しました。  
また、1月26日(木)には、真清田神社において、文化財防火訓練及び文化財管理者研修会を開催しました。

# 文化財保護事業

## 遺跡の発掘調査

一宮市域は、尾張国の一宮である真清田神社や南北朝時代に創建された妙興寺などが立地しており、古くから人々が住み続けてきた地域であることがわかります。昔の人々の残した生活の痕跡である遺跡は、そのような一宮市域の歴史を知る上で、重要な手がかりです。

遺跡からは、住んでいた人々の道具である遺物や、住居や墓などの昔の人々の残した痕跡である遺構が見つかり、それらは地域のかつての景観や歴史、文化などを私たちに教えてくれます。現在までに、遺跡は全国で約46万か所、市域でも407か所で見つかっています。しかしながら、非常に多くの遺跡があるため、すべての遺跡を少しも壊すことなく生かすことはできません。そのため、工事等でやむを得ず遺跡が壊れてしまうことになる場合には、発掘調査を行い、掘削によって失われてしまう部分を記録に残し保存します。発掘調査は全国各地で毎年9千件程度行われており、その成果が新聞などで報じられることも少なくありません。しかしながら、調査がどのようにして行われているのかを知る機会は多くありません。そこで、今回は発掘調査で住居跡などの遺構をどのようにして見つけているのか、その時代をどのようにして知るのか、その方法を紹介します。

## 遺構を見つける

遺跡は、土の中に埋まっているため、現地を歩いただけではその存在がわからないものがほとんどです。そのため、発掘調査では、遺跡の上に積もった土を取り除き、遺構を見つけ記録します。新聞や書籍などで、地面にたくさん穴や溝があいている発掘調査の写真を見たことがある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。このような写真を見た時、土に埋もれてしまっているのに、なぜ住居跡などの昔の人が掘った場所がわかるのだろうと疑問に思われた方も多いと思います。この疑問は、地面がどのようにできているのかを知ることによって解決できます。地面は、洪水で流されてきた土などが長い年月をかけて積もりにできています。そのようにしてできた地面の土は、積もった土ごとに、土の色や砂粒の大きさが違っています。そのため、昔の人が穴を掘った地面と、その穴の中に積もった土とは色や砂粒の大きさが異なります。発掘調査を行う調査員はこの土の違いを見つけることで住居跡などの遺構を見つけているのです。



■発掘調査で見つかった遺構（丹陽町・元屋敷遺跡）  
溝や穴が見つかりました。見つかった溝の一部は屋敷を区画するものであると考えられています。



■土器が埋まっていた穴（丹陽町・元屋敷遺跡）  
黄色の地面を掘った穴の中に、黒色の土が堆積している様子がわかります。

## 時代を知る

土を見極めることで、かつて昔の人がその場所を掘ったことはわかりますが、いつ掘られたのかを知ることは難しいです。そこで時代を知るための手がかりとなるのが、遺構の中から出てきた土器などの遺物です。現在の携帯電話や自動車を見ると使われていた時期によつて、その形が少しずつ変わっていくことがわかります。これと同じように昔使われていた土器などの遺物にも流行があり、少しずつ形が変化していきまされた。そのため遺構から出てきた遺物の特徴を見ることで、その遺構の時代を知ることができるのです。（藤井雅大）

## 郷土史出版補助事業

一宮市では、市内における郷土史研究活動の振興を目的として、一宮地方の郷土史に関する研究成果をまとめた自費出版物に対して、出版に要する経費の一部を補助しています。市内に在住または在勤の方（研究団体を含む）が、毎年4月から翌年3月までに出版されたものについて、印刷製本費の2分の1以内の額（限度額30万円）を補助します（ただし補助額は予算の範囲内において別途算式により決定）。申請締切は、毎年12月25日です（平成29年3月現在）。

今年度は、一宮市文化財保護審議会の審査により、左記の2件が補助対象になりました。これらの本は、博物館や一宮市立図書館で読むことができます。

● 妙楽賢俊 『西萩原ものがたり』

平成28年8月17日刊

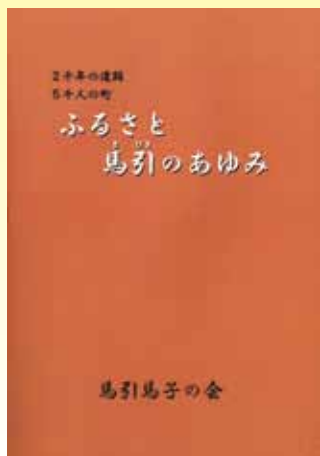


● 馬引馬子の会

『2千年の遺跡5千人の町』

ふるさと馬引のあゆみ

平成28年11月20日刊



# 平成29年度の催し物のご案内

都合により、変更または中止になる場合があります。詳細は当館ウェブサイトでご確認いただくか、お電話などでお問い合わせください。

- ◆企画展「新収蔵品展」 ..... 6月 3日(土)～7月 9日(日)
- ◆夏季小展示「なんで穴があいてるの?」 ..... 7月15日(土)～8月27日(日)
- ◆企画展「2017一宮美術作家協会展」 ..... 9月 2日(土)～9月17日(日)
- ◆企画展「一宮写真協会選抜写真展」 ..... 9月21日(木)～10月1日(日)
- ◆特別展「川合玉堂」  
 【博物館】10月14日(土)～11月26日(日)  
 【玉堂記念木曾川図書館】  
 [前期] 10月14日(土)～22日(日) [後期] 11月1日(水)～8日(水)
- ◆企画展「2017一宮市現代作家美術秀選展」 ..... 12月 2日(土)～17日(日)
- ◆企画展「くらしの道具」 ..... 平成30年1月13日(土)～3月11日(日)

**博物館講座**  
**「尾張平野を語る22」**

6月～8月  
 (全3回予定)

たいけんの森

4～6月 ●民族衣装を着てみよう  
 (右記日程を除く)

7～9月 ●じょうもんキーホルダー

10～12月 ●ちいさなかけじく

1～3月 ●ミニたこづくり

4月29日(土)～5月7日(日)  
 戦国のよろいを着てみよう



第59号

発行日/平成29年3月31日  
 編集・発行/一宮市博物館  
 印刷/三井堂株式会社

**利用案内**

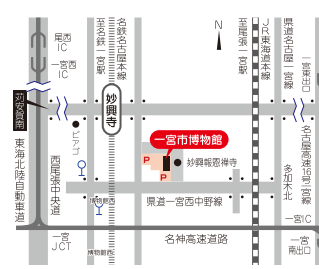
【開館時間】 午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)  
 【休館日】 毎週月曜日(ただし、休日にあたる場合は翌日に休館)、  
 休日の翌日(ただし、土曜日・日曜日または休日の場合は  
 開館)、年末年始(12/28～31、1/1～4)

【観覧料】

		一般	高校・大学生	小・中学生
常設 観覧料	個人	200円	100円	50円
	20人以上の 団体	160円	80円	40円
博物館バスポート (年間観覧券)		800円	400円	200円
ミュゼカード (年間共通観覧券)		2,000円	1,000円	500円
常設展示 共通観覧券		400円	200円	100円

※市内小・中学生は無料。市外小・中学生は土曜日無料。  
 ※市内在住の満65歳以上で、住所・年齢の確認できる公的機関発行の証明書等を提示された方は無料。  
 ※身体障害者手帳・戦傷病者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を持参の方(付添人1人を含む)は無料。  
 ※博物館バスポート＝一宮市博物館の常設展示および特別展示を発行から1年間何度でも観覧可。  
 ※ミュゼカード＝一宮市博物館および一宮市三岸節子記念美術館の常設展示および特別展示を発行から1年間何度でも観覧可。  
 ※常設展示共通観覧券＝一宮市博物館および一宮市三岸節子記念美術館の常設展示を、施設ごとに1回まで観覧可。有効期限可なし。

【特別観覧料】 特別展示の観覧料はその都度定めます。  
 【無料ゾーン】 たいけんの森・展示ホール・2階ギャラリー



〒491-0922 愛知県一宮市大和町妙興寺2390番地  
 TEL0586-46-3215 FAX0586-46-3216  
 URL <http://www.icm-jp.com/>